

松下昇様

9.26. 9.27日の手紙を有難うございました
 10.1に ついては レポートを同封いたしました。また 柳道先生
 さまにお下す。6.9~11を更に押し進めて、「もしも possible
 <自主ゼミ>をやったとしたら、全国のどっぞと話し合いたい
 かつ、うそもた。歴史はじめて以来 初めて行った試み
 ではないか」(参加者の感想あり)と感懐して世に平に去った
 感懐しています。レポートはT君が作成して下さった。→ 9.26日手紙の
 10月11日付の返信
 今度の課題として(佐藤直樹氏と確認して下さるとは)。

- 1) 自主ゼミへの「入り自由」ということの思想的深化。
 (単位制との関係をも明確にしよう)
- 2) ドイツ語の<>化 (→ 学問の転倒の問題)
- 3) <正体ドイツ語の事>の改訂作業
 (1)(2)をやったことと総括し、<世界>は継続的に開示して
 いくのかどうか、という問題として。

(1)(2)(3)とも 実際の授業の展開とつながり重要なこと
 という前提がある...
 各年のプログラム(たとえは 非常勤講師の件も) (1)(2)の展開
 の中で考えてみたと思っております

10.1の「自主ゼミ」に参加した西沢朝登氏は、うっかり
 松下さまに出会ったことにはたいへんという感想を抱きつつ、
 松下さまの表現を愛読して下さるとのことでした。(時の探通信、
 継続語入=希望)

* 時の探通信 第(3)号 5部 } 不送)下す
 5月31日 全通信 第25号 3部

* 6.9 第11号 限の付-70 不送)下す
 クラスの参加者へ提起したところ、反応がはかばかしく
 なかった。もしよかつた。5.5.27 不二人の発言箇所を172と
 やったのは大賛助のりです。

* クラスのレポートについて、量が多すぎ、コピーして
 郵送したりするの少し面倒なのを、2.5.27も同様
 必要を感じて下さる方もあつた。熊手へ来るたびに
 目を通したたくとうことにはしたと思、2.5.27...
 (必要ならば 不送)下す(2, 2下す)

その他は又。
 数次の付-2群の展開は注目して下さる。どうも不元氣!

1981. 10. 6. 元吉瑞枝